



4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	明治期の近代産業の発展に貢献した煉瓦窯とその重要性が広く認識されたこと。また、文化財を保存するのはもちろんのこと、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな資源として活用することが重要である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	新たな観光資源として、今後も文化財を活かした取り組みが重要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の活用が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	春のイベントとしては新年度早々の開催となり、準備期間等の不足が懸念され、他課(特に観光部局)との連携が今後一層必要になってくる。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	これまで多くの予算を伴った煉瓦窯の修復、施設の整備であり、多くの窯見学、施設の利用が本来の設置目的であることから、できるだけ受益者負担の原則を踏まえて、今後も来場したくなるような各種事業を実施していくことが多くの町民や近隣住民の利用に繋がる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	煉瓦窯の見学料については今後の検討課題であるが、他の事業については妥当性があった。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 A. 成果(サービス)向上や改善の余地がある	理由	新たな観光資源として、今後も文化財を活かした取り組みが重要である。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	開催時期や内容など検討の余地はあるが、今後も創意工夫をしながら継続する方向である。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、ホフマン館が観光の拠点という設置目的から、今後も町観光協会・観光主管課と連携し、イベントの共同開催等という手法をとることで経費の削減、事業の効率化を図りながら観光振興につなげていく必要があると思われる。また、過去に駐車場不足で隣接するクレイン栃木や周辺住民に迷惑をかけてしまったところがあったため、イベントの規模およびスタッフの人数や配置などの見直しが今後の課題である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			B. 事業改善	野木町煉瓦窯を活かした事業、文化財等を観光資源として活用する事業は、担当課の単独事業ではなく、観光サイドと連携することで今後の集客が期待でき、相乗効果として野木町全体の観光振興につながると思われる。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
C. 事業継続			野木町煉瓦窯の魅力を町内外に発信するために必要な事業であり、今後も継続すべき。	
3次評価	町長	評価	今後の方向性	



4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	夏のイベントとして、ひまわりフェスティバルに合わせて夏フェスタを開催。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されてきている。また、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな資源としての活用が重要である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	新たな観光資源として、また、煉瓦窯敷地内の環境を活かして集客を図り、文化財を活かした取り組みが必要。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の活用が大きく、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	ひまわりフェスティバルとの共同開催であるが、予想より煉瓦窯への回遊が少ないため、イベント内容の見直しが必要である。近年の猛暑から更なる健康対策を考慮することも必要である。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	事業経費は低予算に抑えられ、来場いただいた方々に町の宝として煉瓦窯の重要性、今後の保存継承等の必要性が認識してもらえたこと、さらに、今後の集客につながる周知ができたことを考えると、受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	夏のイベントとして継続して行っていくためには、事業内容の再検討が必要と思われる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	大がかりなイベントとしてではなく、ひまわりフェスティバルに合わせて事業等を実施することで代替可能である。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>過去の集客状況を含めイベント全般の費用対効果を検討した結果、令和3年度以降は開催しないこととなりましたが、今後もひまわりフェスティバルに合わせて事業等を実施することで、集客に繋げていきたい。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 E. 事業統合・廃止の検討</p> <p>今後の方向性 イベント自体は中止となっても、ひまわりフェスティバルに合わせて集客に繋げられる事業等を検討し、実施していきたい。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 E. 事業統合・廃止の検討</p> <p>今後の方向性 ひまわりフェスティバルと連携した事業等を実施することで、集客に繋げられるよう検討していく。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ						
(1) 事務事業名	煉瓦窯秋フェスタ			(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画		(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち			課	生涯学習課
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり			係	交流センター係
	施策分野	観光振興		(5) 主担当者区分	係長	
	施策	観光資源の整備と活用		(6) 関連する課	産業課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱					

2. 事業内容・投入コスト					
(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方		実施期間	10月3日 ~ 10月4日
	事業内容	国指定重要文化財である「野木町煉瓦窯」と秋のメタセコイヤ並木の魅力を感じていただけるよう、夏フェスタに続き秋のイベントとして秋フェスタの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。			
	前年度から改善した点	なし			

(2) 投入コスト	会計		予 算 科 目		9 款	4 項	6 目	
	区 分		単 位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)
	事業費	コスト総額		千円	38,245	33,550	28,892	30,902
事業費等		千円	20,396	21,326	16,855	18,865	18,865	
財源内訳		国支出金	千円		6,076	1,110	850	850
		県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円	2,615	2,367	870	2,402	2,402
		一般財源	千円	17,781	12,883	14,875	15,613	15,613
人件費		千円×人役	17,849	12,224	12,037	12,037	12,037	
正規職員		千円×人役	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	5,981 × 2.00	5,981 × 2.00	5,981 × 2.00	
正規職員時間外勤務		千円×人役	357 × 0.25	470 × 0.25	300 × 0.25	300 × 0.25	300 × 0.25	
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×	

3. 活動指標・成果指標											
(1) 活動指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度				
	【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】 ・煉瓦窯見学ツアー ・野木町文化遺産フェスティバル ・ひいらぎブローチづくり、石窯料理ワークショップ ・模擬店 (元年度は台風19号の影響により全て中止)			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				煉瓦窯見学者数	人	700	0	0.0	700	0	0.0
				文化遺産フェスティバル参加者数	人	200	0	0.0	200	0	0.0
ワークショップ参加者数	人	50	0	0.0	50	0	0.0				
(2) 成果指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単 位	令和元年度			令和2年度				
	中止のため成果なし			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	グランドオープン以降の四季のイベントとして、れんがまつりを開催している。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識され、文化財を観光連携の一環として新たな観光資源として活用することが重要である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	新たな観光資源として、文化財を活かした取り組みが今後も重要である。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	煉瓦窯での一番大きなイベントであり、煉瓦窯を活用した「文化遺産フェスティバル」を行っているため、ホフマン館に関わる人材の活用はもちろんであるが、行政主体で開催することが望ましいと思われる。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	イベント内容に伴う予算的な費用を更に精査し、次年度に反映していきたい。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	事業経費は、経費の削減をなるべく考慮している。来場者には煉瓦窯の重要性、今後の保存継承等の必要性を認識してもらうこと等を考えると、受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	れんがまつり自体のイベントは継続すべきであると考えているが、令和2年度で活性化事業(文化庁補助事業)が終了となるので、新たに事業見直しが必要となってくる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 A. 事業終了の可能性はない	理由	煉瓦窯を活かした活性化事業(文化庁補助事業)の終了に伴う新たな事業見直しが必要。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>令和元年度の台風の影響による中止に続き、令和2年度についても新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったが、文化財を観光資源として活用していくため、今後も継続して実施していく必要があると思うが、文化庁補助事業の終了に伴いイベント内容の見直しが必要である。</p>		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	<p>評価</p> <p>C. 事業継続</p> <p>今後の方向性</p> <p>文化財の観光資源としての活用という面から、今後も事業の継続が必要であるが、文化庁補助事業の終了に伴い、イベント内容を改めて検討し、実施していく。</p>
	2次評価	所属長	<p>評価</p> <p>C. 事業継続</p> <p>今後の方向性</p> <p>文化庁の補助金が令和2年度で終了するため、事業内容を検討する必要がある。煉瓦窯のイベントは四季実施しているので、今後も継続すべき事業である。</p>
	3次評価	町長	<p>評価</p> <p>今後の方向性</p>

令和3年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(令和2年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	煉瓦窯冬フェスタ		(2) 新規・継続評価の別			継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	教育委員会	
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	生涯学習課	
	分野別目標	地域の魅力を活かしたまちづくり		係	交流センター係	
	施策分野	観光振興	(5) 主担当者区分	主査		
	施策	観光資源の整備と活用	(6) 関連する課	産業課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町煉瓦窯イベント実行委員会設置要綱					

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	野木町民を中心に近隣市町並びに関東一円に居住する方	実施期間	12月6日 ~
	事業内容	四季のイベントの一つとして、冬フェスタを開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。煉瓦窯周辺にイルミネーションを飾り付け、冬の煉瓦窯を演出したり、各種ワークショップ等を実施していた。		
	前年度から改善した点	特になし		

(2) 投入コスト	会計				予算科目	9 款	4 項	6 目			
	事業費	区分	単位	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (見込み)	令和4年度 (見込み)			
				コスト総額	千円	38,245	33,550	28,892	30,902	30,902	
				事業費等	千円	20,396	21,326	16,855	18,865	18,865	
				財源内訳	国支出金	千円		6,076	1,110	850	850
					県支出金	千円					
					地方債	千円					
					その他	千円	2,615	2,367	870	2,402	2,402
				一般財源	千円	17,781	12,883	14,875	15,613	15,613	
				人件費	千円×人役	17,849	12,224	12,037	12,037	12,037	
正規職員				千円×人役	5,920 × 3.00	6,053 × 2.00	5,981 × 2.00	5,981 × 2.00	5,981 × 2.00		
正規職員時間外勤務	千円×人役	357 × 0.25	470 × 0.25	300 × 0.25	300 × 0.25	300 × 0.25					
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×					

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止】・ 煉瓦窯見学ツアー ・イルミネーション ・模擬店 ・ファイアー&ライトパフォーマンス ・陶芸、石窯、バンブーキャンドル等のワークショップ			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		
				煉瓦窯見学者数	人	300	148	49.3	300	0	0.0
				ワークショップ参加者数	人	120	128	106.7	120	0	0.0
イルミネーション来場者数	人	300	200	66.7	300	0	0.0				
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	令和元年度			令和2年度				
	中止のため成果なし			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)		

4. 評価				
(1) 必要性	総合計画の目標に結び付く事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	四季のイベントとして、冬フェスタを開催してきた。近代産業の一端を担った煉瓦窯とその重要性が広く認識されてきている。また、文化財を観光連携の一環として捉え、新たな資源としての活用が重要である。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 B. ニーズが横ばいの事業である	理由	新たな観光資源として、また、煉瓦窯敷地内の環境を活かして集客を図り、文化財を活かした取り組みが必要。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 C. 検討の余地あり	理由	各種事業やイベント開催にあたり、ホフマン館に関わる人材の養成と、新たな人材発掘を同時に展開することが重要である。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 B. 検討の余地あり	理由	冬場のイベントとして賑わい創出には効果的である。しかし、イルミネーションについては経年劣化などで使用できない物が次々に出てきており、継続するには新規の購入が必要である。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 B. 概ね保たれている	理由	冬場のイベントとして、多くの集客につながり、煉瓦窯保存継承等の必要性が認識してもらえたことを考えると、受益者負担の公平性はあるといえる。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	今後の集客につながることを考慮すると、妥当性があるといえる。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	冬のイベントとして継続して行っていくためには、事業内容の再検討が必要と思われる。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	大がかりなイベントとしてではなく、各種講座や敷地内のライトアップ等により代替は可能である。

#### 5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>主担当者</p> <p>過去の集客状況を含めイベント全般の費用対効果を検討した結果、令和3年度以降は開催しないこととなりましたが、今後も季節に合わせた事業等を実施することで、集客に繋げていきたい。</p>
(2) 評価・今後の方針	<p>1次評価</p> <p>担当係長</p> <p>評価 E. 事業統合・廃止の検討</p> <p>今後の方向性 イベント自体は中止となっても、季節に合わせた事業等を検討することで、集客に繋げられる事業等を実施していきたい。</p>
	<p>2次評価</p> <p>所属長</p> <p>評価 E. 事業統合・廃止の検討</p> <p>今後の方向性 事業等の内容を工夫しながら集客の増加が図れるよう検討していく。</p>
	<p>3次評価</p> <p>町長</p> <p>評価</p> <p>今後の方向性</p>